



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

やまなし

2013.10.1

vol.11

no. **1**

contents

- 2 | 書物をメディアにする隣人関係
—「図書館の神様」—
- 4 | 利用者の声
- 5 | 学生にすすめる本
- 6 | 図書館統計
- 7 | 図書館トピックス
• 附属図書館（本館）休館について
- 8 | 今後のイベント紹介

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library



書物をメディアにする隣人関係 —— 『図書館の神様』 ——



テラサキ ヒロアキ

山梨大学附属図書館長 寺崎 弘昭

「読書の秋」と言われますが、わたしにとって秋はどちらかというところ「食欲の秋」，「馬肥ゆる秋」。長い物語をじっくり読むのは、子どもの頃から夏の行事でした。

夏のジリジリした暑さと蝉の音が降る中で畳にうつ伏せになって、庭のひまわりを尻目に、畳に汗を垂らしながら本を読んでいる。いつのまにか、そのままうたた寝をしている……。そんな毎日を繰り返しながら、気がついたら夏休みが終わっている。それがわたしの夏でしたし、いまもそんな日々がないと落ち着かなくなります。

今年の夏は、手始めに短いものをもって、瀬尾まいこ『図書館の神様』(ちくま文庫，2009年)を手にとってみました。最近地域の学校の図書室を見てその充実ぶりに感心することが多く、いまどきの図書室にどんなドラマがあり得るのか素朴に体感してみたいと感じていたからです。

この小説の主人公は、海辺の高校に講師として赴任した新卒の女性国語教師、清。といっても、高校まではバレーボール一筋で、文学は縁遠い、というか苦手。その彼女がなんと文芸部の顧問となることから始まります。文芸部員はたった一人、3年C組の「垣内くん」だけ。物語は、文学(?)を媒介に、それぞれの引き摺っていたしこりが時間とともに浄化されてゆく、といった風情で静かに展開されます。

その垣内くんが全校生徒を前にした文芸部成果発表で意表を突いた発表をし、悪戯っぽく次のように述べるくだりがあります。中学時代にサッカー部のキャプテンだった垣内く

んが、なぜか高校三年間文芸部員として図書室で「毎日ちがう言葉をはぐくみ続けた」。そこにどんな世界があったのか、それが卒業を前にして最後に率直に語られる場面です。

「僕は三年間、ずっと夢中だった。毎日、図書室で僕はずっとときどきしてた。ページを開くたび、……文学は僕の五感を刺激しまくった。……文学を通せば、何年も前に生きてた人と同じものが見れるんだ。見ず知らずの女の人に恋することだってできる。自分の中のものを切り出してくることだってできる。とにかくそこにいながらにして、たいいていのができてしまう。のび太はタイムマシーンに乗って時代を超えて、どこでもドアで世界を回る。マゼランは船で、ライト兄弟は飛行機で新しい世界に飛んでいく。僕は本を開いてそれをする。」

こんな純でまっすぐな言葉に出くわすと、そのナイーヴさに普段のわたしは自分が赤面してしまうのですが、でも小説の力というのは、そんなわたしをも「そうだよね。」と自分を振り返らせるところにあるようです。

「文学」などと敢えて言う必要もなく、書物はわたしの人生を広げてくれます。かつてはロシア文学や西ヨーロッパ文学を読み継いでいた時もありましたが、最近では他の地域を舞台にした物語も手軽に日本語訳で読めるようになり、南米コロンビアのガブリエル・ホセ・ガルシア＝マルケス『百年の孤独』(新潮社，2006年)や、アフリカはナイジェリアのビアフラ戦争を舞台にしたチママンダ・ンゴ

ズィ・アディーチェ『半分のぼった黄色い太陽』(河出書房新社, 2010年)なども読むようになりました。最近では, トルコの2006年ノーベル文学賞受賞者オルハン・パムクが書いた『わたしの名は赤』(ハヤカワepi文庫, 2012年)にはまっていました。これは, 1591年, オスマン帝国の首都イスタンブールを舞台にした, 装飾写本をめぐるミステリー。こうした物語は, 垣内くんが言ったように, 狭いわたしの生の体験を否応なく飛躍的におし広げ, わたしを超えて異世界とその見え方を追体験させてくれるものなのです。

しかし, 当然のことですが, 追体験の内容や質というのは人それぞれ。だから, 一つの書物を紹介するとしても, それはその人の追体験, しかもその欠片を取り出すことにすぎません。一つの書物がどんなものなのかは, その書物が必要かつ十分な叙述でようやく成り立っている以上, その書物だけが示すことができているわけです。でも大事なことは, 一つの書物を語ることに際して, その人は直接自らを語ることなく, 書物に触発された自らをつねにすでに表出しているということです。

だからなおさら, 『図書館の神様』の清と垣内くんの場合もそうですが, 書物を二人の間に置いて互いの追体験を断片的にであれ交

換できる, そんないわば隣人関係は貴重だと思います。それはあたかも, 書物という鏡を前にして二人の読者が隣り合い互いを映し出している, そんな関係でしょう。清も, 垣内くんが山本周五郎『さぶ』を話題にしたその夜, 早速読み通し, 読後の昂奮に駆られて真夜中にもかかわらず電話してしまいます。「読んだよ。面白かった。」, それだけ。それだけでいいのです。作品の体験が共有され, 作品が二人のメディア(媒体)として言い表し難い豊饒な追体験の厚みで二人を繋げてくれているからです。こんな隣人関係が図書館のそこかしこで生まれれば, いいですね。

わたしもこの夏は, 或る友人が話題にしたスティーン・グリーンブラット『一四一七年, その一冊がすべてを変えた』(柏書房, 2012年)を, 猛暑の中で読み終えました。1世紀ローマの或る唯物論的宇宙論叙事詩が千年の時を経て奇蹟的に見出され, それが近現代を駆動する次第を物語った, 2012年ピューリッツァー賞ノンフィクション部門受賞作の翻訳です。今度会うときに, わたしは, ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』(東京創元社1990年)や映画『アレクサンドリア』(2009年), そして池澤夏樹『スティル・ライフ』(中央公論社, 1988年)に出てくるチェレンコフ光の逸話にからめて話してみようと思っています。楽しみです。

読書の秋に...



- * 図書館の神様
- * 百年の孤独
- * 半分のぼった黄色い太陽
- * わたしの名は赤 (上)・(下)
- * さぶ
- * 一四一七年, その一冊がすべてを変えた
- * 薔薇の名前
- * 【映画】アレクサンドリア
- * スティル・ライフ



*** 紹介された図書は本館に所蔵しています。ぜひご利用ください ***

図書館での勉強

大学院医学工学総合教育部
機械工学システム専攻 1年

オオヤ トシフミ

大矢 敏史

みなさんはどんな場所でどのように勉強をしていますか？

私は附属図書館の利用が多いです。

大学に入学して4年半が過ぎました。1年生の頃は、一人で机に向かって黙々と勉強をしていた覚えがあります。しかし、学年が上がるに連れて専門分野が増えます。そこには教科書やインターネットに記述が少ない、もしくは全く無い問題が多く存在します。こんな時、附属図書館の利用で解決できた問題が多くありました。なぜならば、附属図書館には関連分野の図書が多く所蔵されており、その中から自分の必要とする知識を得ることができます。しかし、それだけでは解決できない問題は多くあるでしょう。そんな時は仲間を図書館に集めて知恵を出し合います。大学の図書館にはグループ学習室が存在するので勉強もはかどります。仲間と話してみると、案外自分だけ難しく考えすぎていたりして、すぐに問題が解けてしまったりすることもありました。

今年、附属図書館の仕事に関わって前期が終了しました。平日の大学の閉館時間は午後8時です。テスト期間中はギリギリまで勉強をして行く人が多いです。また机の上に残った消しカスからも、頑張っている学生が多くいるように思います。それだけ、図書館での勉強は魅力があると考えられます。

みなさんはどんな場所でどのように勉強をしていますか？

是非、附属図書館の利用をオススメします。



本のリクエスト

医学部 看護学科 4年

ウキタ ミチコ

浮田 道子

私は2年の頃から、医学分館のカウンター業務をやらせて頂いている。業務を行う上で図書館には大学の学生だけでなく、様々な人が利用していることがわかる。附属病院の医師や看護師、また外部から来られる方もいる。多くの方が利用していることもあり、図書館を利用する方法も人それぞれである。毎日のように図書館に通う人もいれば、本を借りるだけという人もいるだろう。私は今まで試験前の勉強や実習中の記録を書く際に利用してきた。家では勉強に集中できないときも、図書館に行き、皆が勉強する環境に身を置くことで集中力が高まり、また同じ学年の子が勉強している姿を見ると、自分も身が引き締まりやる気につながっている。

図書館を利用していく中で気になることは、本のリクエストについてである。実習中には調べたいことがあると図書館で本を探すことが多くなる。そんなときに友だちからは「こんな本があればいいのに。」「あの本が図書館にもあればいいのにね。」などの声が聞かれることがある。口には出しているものの、その思いを直接職員の方には伝えることは少ない。実習期間は限られていて、その時見たいと思った本は数日後には解決していて、別の本を探していることが多い。そのため、「本をリクエストする」ということまで繋がらないのかもしれない。しかし、実習が終わった後も図書館を利用していき、またこれから実習が始まる先輩たちも利用していくことになる。そのため、少しでもリクエストしたい本があれば図書館に伝えていくことで、本の充実につながっていくと考える。これからも皆が利用しやすい図書館になるように、感じたことや思ったことは伝えていき、本のリクエストも出してほしいと思う。

■ 学生にすすめる本



『 大本営参謀の情報戦記 — 情報なき国家の悲劇 — 』

堀 栄三 著 文藝春秋

医学部 血液・腫瘍内科

キリト ケイタ
桐戸 敬太

本館2階 新着書架 391.6

分館2階 開架図書(第二) 391.6

医学における情報とは何であろうか。大規模臨床試験の結果から、個々の患者さんの日々刻々変化する臨床所見まですべて“情報”として一括りにすることも可能である。臨床の場では、これらの様々なレベルの情報を統合し、それに基づき的確な判断を下すことが求められる。戦場でも同様である。人の生命がかかっていると言う点では、全く同質とって良いかもしれない。本書は、旧日本軍の情報参謀であった、堀栄三氏の著書である。戦中そして戦後の体験を元に、情報をいかに収集し分析し、そして実際の判断にどのように生かしていくのか、冷静な筆致で記述されている。“情報はときにうそをつく”，“情報は必ず2線，3線を交差させ、判断せよ”などの短い、示唆に富む言葉が並ぶ。

さらに，“情報を100%集めることはできず、その空白の部分をもどのように解明し、処理するかが情報に携わるものの最重要な任務”とし、そのためには、データベースではなく，“職人の勘”がものをいうとの言葉がある。臨床医学においては、大規模臨床試験に基づいたEBMの重要性が叫ばれて久しい。しかし、本当にEBMがすべて正しいのであろうか。日常診療での個々の症例にあてはめようとする、情報の空白が多いことに気づく。この空白をいかに埋めるかは、やはり臨床医の“職人の勘”ではないだろうか。実際の臨床や医学研究においても多くの示唆を与えてくれる書である。



『 ブラック企業 — 日本を食いつぶす妖怪 — 』 ほか

今野晴貴 著 文藝春秋

生命環境学部 地域社会システム学科

カドノ ケイジ
門野 圭司

本館2階 新着書架



このコーナーでは1冊に絞ってやや詳細に紹介するのが慣例のようですが、1冊ではもったいない気がしますので、思い切って趣向を変えます。ここ1年で私が手に取った一般読者に向けて書かれている本の中から、途中で投げ出さずに最後まで読み通した何冊かをランダムに紹介します。（私が著書の内容に全面的に賛同しているかどうかはまた別の話ですので、誤解の無いように注意してください。）

『ブラック企業』：8月に「第2回ブラック企業大賞」の結果が発表されたばかりですが、「ブラック企業」という言葉を世の中に広く認知させるに多大な貢献のあった著書です。

『希望を捨てない市民政治』：徳島県で国が建設を予定していた吉野川可動堰を建設中止に追い込んだ市民運動に関する、運動の中心を担ったうちの一人による詳細な記録です。

『「尖閣問題」とは何か』：多くの人々が「一つの立場と一つの論理」に固執しがちな「領土問題」について、国際政治に関する豊富な知識に基づいて「相対化」を試みています。

『「原発事故報告書」の真実とウソ』：福島第一原発の事故に関する4つの「原発事故報告書」を丁寧に読み比べたうえで、それぞれの報告書の特徴を浮き彫りにしています。

他にも『独立国家のつくりかた』『キャリア教育のウソ』『経済大陸アフリカ』など多々ありますが、字数制限のため断念しました。また、同様の理由で著者名と出版社名も省略していることをご了承ください。



図書館統計 (平成24年度)



(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	263日	110,827	2,246	113,073
分館	287日	150,132	386	150,518

(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	25,492	2,414	1,541	29,447	2,872
分館	14,463	2,660	269	17,392	2,826

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	255	261	1,409	1,488
分館	61	65	2,253	2,728
合計	316	326	3,662	4,216

(4) 子ども図書室(H24年度)

開館日数	118日
入室者数	1,840人
貸出券発行人数	86人
蔵書冊数	4,111冊
貸出冊数	2,695冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数(H25.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	386,088	136,914	523,002	7,393	2,463	9,856
分館	51,038	42,723	93,761	2,256	1,317	3,573
合計	437,126	179,637	616,763	9,649	3,780	13,429

(2) 図書・雑誌受入数(H24年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	5,339	501	5,840	2,420	208	2,628
分館	2,319	240	2,559	531	110	641
合計	7,658	741	8,399	2,951	318	3,269

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2012/4~2013/3) fulltext ダウンロード件数

Science Direct	109,189	Science	3,125
Nature Group	12,778	Oxford University	3,372



附属図書館（本館）休館について

附属図書館本館（甲府キャンパス）は、2013年11月より耐震改修工事が始まります。そのため、一定期間休館となります。工事期間中は以下の運用を予定しています。なお、変更・追加情報などは、HPやCNS等でお知らせいたします。

休館期間 : 2013年11月以降（詳細未定）～2014年3月末

仮図書室 : 大学会館2階（一部図書の貸出・返却のみ）

仮学習室 : B1号館1階

図書貸出冊数 : 学生 : 20冊
(学内者のみ) : 教職員 : 無制限

図書貸出期間 : 返却期限日を延長する予定です。
詳しくはCNS等のお知らせをご覧ください。

返却ポスト : 大学会館2階・A2号館・Y号館2階に設置

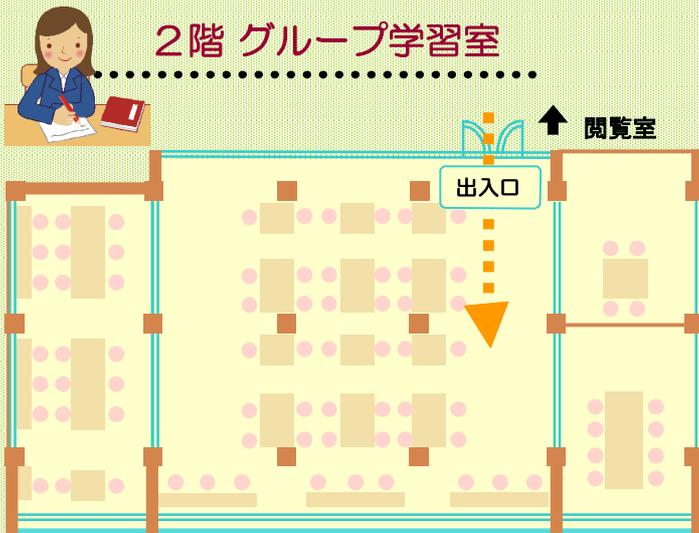


- ** これらサービスは全て予定ですので変更の可能性があります。
- ** 工事期間中は学外者の方へのサービスを全て停止いたします。



Coming soon!

図書館が新しくなります！



*イメージ図です。

山梨大学附属図書館医学分館・「生と死のコーナー」関連行事 講演会

- 演題：ディグニティセラピーのすすめ
- 講師：小森 康永先生
(愛知県がんセンター中央病院緩和ケア部部长)
- 日時：平成25年10月18日(金) 18時00分～19時30分
- 場所：山梨大学 医学部キャンパス 臨床講義棟 大講義室



医学分館では、平成25年度「生と死のコーナー」関連行事として、愛知県がんセンター中央病院緩和ケア部部长の小森康永先生を講師にお招きし、講演会を開催します。

ディグニティセラピーとは「終末期の患者さんの尊厳を維持することを目的とする精神療法的アプローチのひとつということ」*であり、愛知がんセンター中央病院での実践を通じた講演を聴くことが出来る貴重な機会となりますので、医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。

*愛知県がんセンター中央病院HPより

http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/15anti_cancer/dignity-therapy.html

平成25年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもの本を知る・連続講座」全5回のご案内

- 第4回 都留文科大学教授 鶴田清司氏をお招きし講演予定
日時：平成25年11月22日(金) 14時～(予定)
場所：山梨県立図書館
- 第5回 (株)フレーベル館取締役・出版事業本部 木村美幸氏をお招きし講演予定
日時：平成26年2月13日(木) 14時～(予定)
場所：山梨県立図書館



子ども図書室では、山梨県と山梨大学の連携事業の一環として、山梨県立図書館と山梨大学の共同企画により、「子どもの本を知る・連続講座」(全5回)を開催しています。子どもと本・読書に関わる諸テーマで講演・ワークショップを行っています。参加申し込みは毎回必要となっています。

お申し込み・お問い合わせ

山梨県立図書館サービス課 子ども読書推進担当

〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1 TEL 055-255-1040 FAX 055-255-1042



◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066 (情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357 (医学情報グループ)にお問い合わせください。



● 表紙撮影：図書・情報課 職員
場 所：山梨大学(甲府キャンパス)

山梨大学附属図書館報

「やまなし」

第11巻第1号

2013年10月1日発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063